

コンサルティングNOW

【96】

企業にとっての物流とは

国際物流総合研究所 主席研究員 古島 靖久

一心サポート代表

「物流とは？」筆者が相手がこう質問された時は、このように答える。「企業は、倉庫業・3PL側の目線から捉える場合でも、荷主側のメーカや卸売業、商社のような企業の目線から捉える場合でも、本質としては「ブランド」を認める筆者は持っている。旧態依然の企業にとっては、単なる「コスト」と捉えられている現実はいまだにある。企業の売上高のおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。



物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。

企業の利益をつくるのは物流部門である。これがなかなか理解されない。企業内の会話の中で経営幹部が「物流は大事だ」といふ言葉を口にするのは、筆者は驚かされる。物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

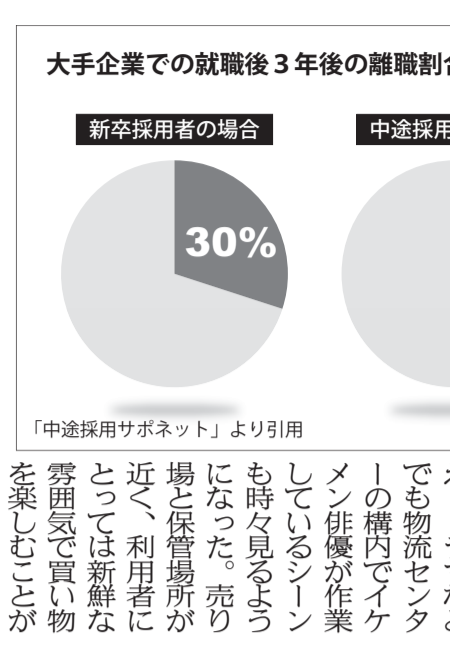
物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。



物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。



【略歴】(左) 古島 靖久

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

物流を「日常」にするのは、顧客満足度を高めることにつながる。近年では企業がおおむね10%を占めるのだから当然と言えば当然だろう。

ご購入お申し込みは **海事プレス社** **ダイレクトショップ**で!

価格 **1,900円**(税・送料別)

10冊以上購入で定価より10%割引いたします

www.kaiji-press.co.jp

TEL **03-5835-4162**

E-mail: hanbai@kaiji-press.co.jp

電子版も発売中

価格 **2,052円**(税込み)

下記電子書店でもご購入いただけます

Amazon / iBooks / 楽天kobo / セブンネットショッピング / ブックパス

フレッシュマンのための航空貨物Q&A 100問100答

フレッシュマンのための航空貨物Q&A 100問100答

日刊CARGO編集部編 第6版

海事プレス社

フレッシュマンからベテランまで **必読の1冊!!**

最新版Q&A 内容紹介(抜粋)

- 入門編**
 - 世界でどのくらいの航空貨物が運ばれているのですか? ■最新型は貨物が多く積めるそうですね ■ハブ・アンド・スポークとはどういうことですか?
- 初級編**
 - IATAの仕事とは何ですか? ■実際に運賃はどうやって決まるのですか? ■温度管理と軽さが重要と聞きましたが? ■電池が危ないと言われますがなぜですか?
- 中級編**
 - シカゴ条約が民間航空体制の基本といわれますか? ■航空運航のルールは海運とは異なるのですか? ■航空貨物の通関はコンピューターで行われているそうですか?
- 応用編**
 - 輸出入申告がどこからでも、どこへでも可能になるのですか? ■爆発物検査は100%行わなければならないのですか? ■貨物もeチケットみたいなものを導入しているそうですか?
- 統計・資料編**
 - 日本出入航空貨物取り扱い実績の推移 ■航空貨物貿易額の推移 ■航空機積み込み・取り降ろし貨物量の推移

経済の先行指標“エアカーゴ”を分かりやすく解説

最新情報に基づき、2012年版を改訂。初歩的なテーマからホットな話題まで、専門記者が厳選した100の質問を選び直しました。写真や図表を使い各用語など丁寧な説明を行っています。MEMO欄ではそれぞれの項目を補足する内容となっています。

最新のエアカーゴ関連の統計資料も掲載

エアカーゴに関する統計が一目でわかるように図表で掲載しています。最新情報を基にした統計資料は、エアカーゴ輸送のポイントや「いま」の動向が理解できるとともに、将来のエアカーゴ業界を考える切っ掛けにもなります。